

1班 豊かな自然環境について

もともとある自然

丸亀の南部をふちどる山々

- ・本来の自然をありのままの状態として守っていく
- ・観光資源としての活用

飯野山

土器川

- ・土器川の中の公園の活用
- ・南北までつながる土器川を広く多方面から利用する
- ・メダカ、ザリガニ、ほたるなどのたくさんの生物が自然に生きていける環境を守ること
- ・市民が川を愛し、守っていこう

「みんなで清掃し、保全をしましょう」

瀬戸内海と島々

自然の中で生きる（生かされた）人

自然を守ること

自然を愛すること

環境教育

景観を守ることにより、人と人とのつながりを守り、自然の大切さ、尊さを分ける人を育てることになる

自然環境を保全していくこと（防災につながる。災害に強い自然に）

木を育てる 川をよごさない きれいな水 美しい海 豊かな恵み

人のつくった自然

ため池

親水公園の整備（ため池を利用）

丸亀城

神社に残る社そう林

- ・生活に近い緑を守ること

生活の中の自然

- ・農産物の活用（ゴミとして出すだけでなく、より活用していく方法を見つける）
- ・農業の活性化（田んぼを守る 農産物を育てる 食べるものを自ら作る）
- ・観光資源として地域特産物を生み出す

自然環境の活用

1班

丸亀市 人口 110,025人 総面積 111.79km² 平成17年1月1日現在

大切にしたい自然環境

手島の88ヶ所とむし風呂。

島めぐり 青い海

多島美 瀬戸内海

塩飽諸島 瀬戸内海に浮かぶ大小29の島々からなる塩飽諸島。"塩飽"とは、東と西から流れこんだ潮がこのあたりでぶつかり合い、"美しく"と叫んだのが始まりだといわれています。かつて塩飽水軍の本拠地であり、今も歴史と文化の香りが漂う本島や、青木石で有名な広島など自然豊かな島々が点在しています。

山・池・川の流れと人の生活とのかかわり

豊かな水田地帯 (米・麦作、野菜)

自助能力ある 事前の生態系 とするには？

池や川が護岸工事により手を加えられている。一自然本来の状態にいかにして戻せるか！守れるか。

神社に残る社そう林

1:28,500

丸亀市の10年後の状態は、環境を重点に人間を大切にしたい行政を行う。

雨水や下水の再利用 (例：市役所(飯山・綾歌市民総合センター含む)や公衆便所や市所有施設(例：お城など)の便所を水洗化して欲しい。

土器川の自然を残す。人の手を加えて自然を壊さず公園等を作り、観光も兼ねた豊かな環境を望む

丸亀、綾歌、飯山をつなぐ土器川

土器川の活用

点在するため池

飯野山を開発 (サクラの木、モモの木で大文字を)

飯山の桃畑

綾歌町大原地区の果樹園地 (はっさく、モモ栽培)

土器川生物公園

ほたる

すべての道は、こんぴらさんへ

栗熊ガーデン

電照菊栽培

城山

綾歌森林公園

新丸亀の背景となる (城山~大高見峰峠)

森林公園 畦田キャンプ場

花だより

種類	名称	時期
サクラ	丸亀城山公園	3月下旬~4月上旬
	塩飽前緑地	4月上旬
	南山総合運動公園	4月上旬
	福成寺前(福成町)	2月上旬~下旬
モモ	飯山北第一団	3月下旬~4月上旬
	綾歌町第一団	3月下旬~4月上旬
リンゴ	丸れんげの里 新丸亀の里	4月中旬
アイリス	飯家アイリスの里	5月上旬
ショウブ	新田キャンプ場 露草園	5月下旬~初夏
ミスアオイ	土器川生物公園	10月

香川のみどり百選

- 丸亀城山公園 (丸亀城)
- 青ノ山
- 飯野山
- 本島(高見山)
- 城山
- 塩山
- 大高見峰
- 飯山・城山
- 広島(王塚山)

2班 歴史・文化資源について

～歴史を知ることが若者、転入者が地元を知り、地域（人）を醸成することにつながる～

資源について

建築観光資源

丸亀城（築400年木造天守閣全国12のうちの1つ）
 猪熊美術館（世界の画伯の美術館）
 中津万象園
 西本願寺塩屋別院
 太助灯籠
 金比羅への道ということで、栄えた丸亀港の歴史
 三谷寺（真言寺）
 ・神が宿る

自然観光資源

飯野山（讃岐富士）
 快天山古墳（約3000年前 四国最大級 国指定史跡）
 陣の丸古墳（約1700年前 県指定史跡）
 青の山古墳
 土器川
 金倉城
 塩飽諸島（本島・向島・牛島・広島・手島・小手島）
 綾歌森林公園（大高見峰・小高見峰・猫山・城山）
 西長尾城跡城山（約600年前）
 天狗伝説（高見坊天狗）

文化遺産

琴比羅街道、お遍路さん
 農業の歴史、ため池、宝幢寺池
 地域のまつり、伝統行事、食文化、伝統芸能、坂本念仏おどり（無形文化財）
 昔話、地区に伝わる民話
 伝統芸納品、うちわ、きく
 歴史を彩った人、井上通女、田宮坊太郎伝説、曲垣平九郎

歴史・文化について

保全維持

現状（原形）の維持
 あるがままの姿を維持していく
 環境整備されたところには人が集まる
 亀山公園の整備移転
 築400年の城下町として風格を持たせる施策をする（周辺整備のまちづくりが大切）

人の育成

市民によるボランティアの清掃活動
 ガイド制度
 各島のおじさん、おばさんがガイド役
 市民による植樹活動（神社の石段の西側に花の咲く苗樹）

イベント

瀬戸内海クルーズの企画
 島めぐり観光船（10時出発 4時帰港）
 山・川歩きツアーの定着
 自然資源を利用したイベントの実施

自然環境

自然を傷つけないような保存
 自然の姿を残す
 海拔50m以上に開発規制をし、景観美を守る
 クリーンな海
 各島にある家族的なレストラン

PR活動

観光PR
 丸亀城木造天守閣の他の城と共同でイベント、PRをする
 PRポスター、チラシは熱っぽい表現にする
 大きな単位で観光資源として売り込む（ex：太助灯籠～金比羅山）
 他の城と異なる（木造天守閣、石垣）を重点PRする。ポスター、パンフレットなどでPR
 歴史的建造物遠足ツアー
 市内観光のための案内板の要所設置
 詳しく紹介するチラシの作成（興味のもてる内容とする）
 世界の猪熊美術館として
 ・美術講座開設
 ・市民ギャラリー開設
 ・シニア優待

継承

学校で

自然教室等の環境講座で自然保護の意識
 学校の教材として取り上げる。エピソードを追加する
 小学生（子ども）地域の住民から昔話をしてもらう
 教科書に地元の歴史を載せる
 学校教育に取り入れる

地域・家庭で

行事を記録に残し、地元の子もたちが全員できるようにする（伝承できる体制にする）
 自治会、子ども会の活性化
 若い人たちに参加の機会を増やす
 伝統行事の保存
 広報誌等で市民に知ってもらう
 伝統芸能祭りで一同に会する

保存

歴史上の实在、架空を問わず残らずリストアップしてPRする
 語り部の育成
 冊子として編集、保存

創設

他地域からどんどんやってくる丸亀独自の行事、風俗を長期計画で創設する

3班 公共施設のあり方や市民活動の活性化について

市民活動について

交流
 市民活動同士の情報交換の場
 コミュニティが積極的にNPO等の市民団体と交流を持つ
 市民活動団体の交流をもち、ネットワークを作る。情報共有
 ネットワークづくり
 市民活動:市民の他のグループ同志の交流を密に行う。市内及び地域の市民活動の団体は？

自立と支援
 誰かに支援してもらおうのではなく、ミッションのもと、運営していく(行政は利用)
 市民活動の財政的支援
 市民活動、環境美化に対して機器の購入に補助が欲しい(清掃活動)

ニューバージョン
 地域防災グループ
 ご近所の子育てサークル
 健康・福祉・介護における活動の活性化
 自治会・老人会以外のリタイア組のサークル活動

条例
 市民活動の環境整備
 市民活動促進支援を充実する

リニューアル
 コミュニティ活動のあり方を見直し
 自治会活動の見直し

人材育成
 地域に本当に活動的な市民団体ができれば変わると思う！
 市民活動ファシリテーターの発掘養成
 自治コミュニティの中に市民活動のリーダー的人材を多く登用する

NPOの有効利用
 市民活動と行政の協働推進
 まちづくりと市民活動
 市民活動と男女共同参画

意識・PR
 市民による、市民の地域自治に関して、一般の人達に市民活動を通じて広めていく 個人の意識レベルの高揚
 地域の人たちに市民活動の必要性をどう伝えるか
 行政と市民という関係はもちろんだが、地域で解決するのに市民活動団体という考え

施設について

バラツキ
 島しょ部では公共施設の数、質・量は充実してはいない
 施設の設置場所にバラつきがある
 合併に伴う建設等があり、市中心部のみならず、周辺部分にも充分供給されていると思う

利用しやすい施設がほしい
 気軽に行けているいろいろな人と情報交換や交流のできる施設がほしい
 建物があれば良いのではなく、市民が利用できる施設が必要
 公共施設に対する期待として、高齢化にともないディサービスセンターを島にも作って欲しい

新設？
 施設建設にあたってPFI活用
 大学の設置
 新庁舎建設についての合併協議会意見の見直し
 施設建設計画の見直し(お城の前)
 小学校、中学校など子どもたちを育てる施設
 学校教育施設の改善には、十分な予算配分を

見直し
 コミュニティの利用の見直し
 ポリテクカレッジの機能を拡大して活用
 コミュニティセンター等については、地元住民の方が管理しており、利用(使用)時間に制限がある
 不用施設の見直し

情報
 目的別じゃないすべての施設のデータベース化
 利用申し込みのIT化

アクセス
 施設の場所がわかりづらい
 利用しづらい

管理・運営
 施設利用者が管理する
 市民参画で施設の運営を行う
 施設の必要性によって、管理・運営の仕方を変えるべき！
 運営・管理は、施設自体の性格にもよるが、基本的には住民本位(地域運営)が理想と思う
 施設の維持には、市の予算が必要であるが、管理人件費は地域を利用することで圧縮できるのではないかと
 管理の民間委託
 ・適する施設と適さない施設がある
 ・管理・運営については島の人では出来ない(資格・その他)行政ヘルプがいる
 運用について(親方日の丸意識の撤廃):民間の意見を聞く場をもっと増やす
 経済団体に協力してもらって、市長の諮問機関を設置する

4班 誰もが活動しやすい交通とまちの活性化について

自動車の重要性

交通手段 自家用車
丸亀市の現状から考えて自動車（公共交通網が未発達であり、それらを整備するコストを考えると自動車の方がよいと思う）

公共交通機関の活用

若い人は車を使い、高齢者と子どもはぐるっとバスを使う
高齢者等のため、タクシーを利用できる「割引券」「枚数限度のフリー切符」
高齢者など、停留所が遠く乗れない人の為に
 病院の通院にはタクシーの割引券
 介護タクシーの利用。
高齢者・障害者のためのタクシー割引券。バスよりも有効かも
タクシー（バス）の有効利用ができるように料金を検討する（年齢別など）
ぐるっとバス時刻表と乗りかえ場所の件
回数が少ない（1時間あく）
ぐるっとバス 運行経路と停留所の件
公共交通 バス停の不足。「予算」1億の件
公共交通の利用促進
 ・時間、停留所の問題

安全な道路の整備

安全に歩行、自転車、車の運転が出来るような道路の区分
土器川産直横の道路を改善の余地あり（車・歩道間のコンクリート）
狭い道での歩行者道路の確保

市中心部の活性化

人気（ひとけ）があまりない。活気に乏しい。商店街を再びまちの人々が利用するのが望ましい
無料駐車場が必要
 ・美術館は1時間（1時間では少ない）
「ホテル」街とか、特別な業種に限って割安地価（若しくはレンタル）で提供する
活性化 時代の流れ。
税金などを格安にして、人口が増加するように。他市より住みやすい環境を作ることによって、消費を向上し活性化を。



活性化は不要。いわゆる中心市街地が活性化したからといって私自身にはメリットなし。人が集まるところが中心地。

5班 安心して暮らせるまちづくりについて

不安要因

地域の高齢化

高齢化と過疎化で老後不安。死ぬまで自宅で生活できない（福祉の公平）
高齢化等により自治会からの脱退者の増加
福祉、介護、年金
医療関係で現在島内では診療所が一箇所ですべて全治療となっている。応急手当のみである
船便の確保。島内人口激減

犯罪の増加

青少年・児童が犯罪に巻き込まれる事件が多発している
子供達を狙った犯罪等が増えてきた
犯罪の増加（新聞報道等でよく目にするようになったから）
防犯対策の遅れ
犯罪が身近で起きている

自然災害

自然災害が多くなった
自然災害への対応（救助等）
防災対策

その他

国、地方全体が不健康な為、個人の健康づくりに重点をおくべし
教育の必要性（智育、徳育、体育以上に食育）に力を入れるべし。体も心も精神も食で決まるとりまく環境の悪化（アスベスト、食品衛生、自然環境）

コミュニティのあり方

地域に根ざしたコミュニティ

自治会＝コミュニティ 自治会役員がコミュニティ業務？
地域の安全・安心を確保できるようなコミュニティをつくる
地域住民と行政の話し合いの場を作る
地域のことは地域で担える体制が必要

自主研鑽

まちづくりワークショップ等（3ヶ月に1回）
・年数回続行されたい
異なる年齢層の交流
自主防災組織づくり

望ましい危険・不安の解消方法

組織の役割

行政レベルの支援が必要
行政、住民との役割分担をはっきりする
地域住民の意識改革が必要
行政と市民とのパイプ役（コミュニティ）
行政と市民の意識改革

有事への備え

地域コミュニティでは講習会、勉強会を計画する。組織づくり
万一、災害が発生しても対応できる備え
人づくり 地域住民に情報を流す
塩飽諸島、お城、土器川、飯野山、綾歌山系を核とした安心、安全なまちづくり
自然災害が起きた時にどのようにして高齢者、子供達を救助するのか？

長期的視点

食生活の大切さ。啓発運動をする

6班 教育・子育ての環境について

